



NEWS

2013 No.262

1月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

平成25年 理事長年頭のご挨拶

NGPブランドの確立へ、総力を結集して挑戦します! 「クルマ直しの、新しい選択!! エコひろば」で リサイクル部品利用促進を推進します



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
理事長 長谷川利彦

明けましておめでとうございます。年頭にあたり、新年のお慶びを申し上げます。

昨年を振り返りますと、東日本大震災の復興がままならず、海外経済の減速にともなう生産・消費の低迷があり、ほぼ全産業で景況感がマイナスとなる不安定な1年でした。

とくに自動車関連は、エコカー補助金の終了により国内販売が落ち込み、さらに尖閣諸島問題による日中関係の悪化は、日本車メーカーの中国ビジネスに大きな打撃となりました。

また、米国大統領選、中国最高指導部の交代、韓国での大統領選、我が国では衆議院選挙と政治の年でもありました。

総選挙で誕生した自・公政権には、景気浮揚のための経済対策に期待するところですが、我々のリサイクル部品業界も使用済自動車の減少、車両仕入価格高騰、スクラップ価格の下落、物流費高騰等、大変厳しい苦悩する1年でありました。

こうした中でNGP協同組合は、東日本大震災被災車両の処理活動を継続するとともに、「被災地の学校に届け、みんなのベルマーク」を合言葉にベルマーク運動に協賛、昨年4月1日からNGPリユース部品の信頼の証であるギャランティーシールにベルマークを付加し、皆様にご協力をいただくことになりました。

また、昨年10月開催の第8回定期総会で、「直往邁進・強い組合員を育てる、総員総力を結集しよう!」を採択し、組織活動に取り組んでいます。

取り組みの柱のひとつが、組合員向けに展開する現場主義コンサルのカイゼン塾です。これらの教育プログラムを通じて、NGPの基本である「お客様第一」「よりよい商品をより正確により早く」「補修部品業界のリーダーたること」を今一度、組合員へ徹底し、高品質でより高度なサービス提供を実現してNGPブランドをしっかりと確立してまいります。

さて、今年の経済環境も楽観を許しません。円高、デフレ、少子高齢化等の影響は避けようがなく、自動車保有台数の減少が続くことが見込まれます。この影響を受けて使用済自動車の発生台数も減少し、使用済自動車の流通構造にも新しい変化が予測されます。

政策課題として、技術革新が目覚ましい次世代自動車が搭載するモーター、電池からレアメタル、レアアースを回収するスキームの確立が急浮上しています。

折しも昨年10月から損害保険会社が実施した自動車保険料率制度改定は、自動車整備修理工場の皆様と同様に、我々NGPにとってもリサイクル部品市場を一変させ

るインパクトがありました。

保険事故を起こした場合、事故あり等級の適用を受けることで、保険を使った方が損か?得か?をシミュレーションし、保険契約者に説明する必要が不可欠となったことです。これ以降、損害保険会社の社員やブロー代理店を対象にリサイクル部品に関する研修会や工場見学会の要請を受け、NGP本部を中心に協力してまいりましたが、一方でリサイクル部品に対する理解の低調さを改めて感じる事ができ、リサイクル部品のさらなる認知向上努力が必要なことを痛感いたしました。

同時期に開始した「その手があったか!リサイクル部品!!」「クルマ直しの、新しい選択!! エコひろば」の全国テレビCMは、お陰様で好評をいただいています。また、整備修理工場様からは、あらためてNGPダイレクトシステム導入の問い合わせも寄せられております。これに満足せず、我々NGP協同組合はこの1年を新たなニーズへの対応と課題改善への取り組みで足元を固める時期と位置付け、期待に応えるべくしっかりと行動していく所存です。

業界のリーダーとして、先頭に立ってより良いリサイクル部品業界を創造する志を持って組合員が結集し、直往邁進してまいります。組合員各社は各地域において信頼され、選ばれるNGPブランドのリサイクル部品供給を通して、お客様利益を確保する満足度の高いサービス提供に努めてまいります。引き続き関係各位のご理解ご支援をお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

大手メーカーの本格参入で商品力大幅アップの軽自動車

2012年の年間販売台数は200万台の大台にあと一歩

軽自動車販売が好調です。エコカー補助金の終了とともに登録車は伸び悩み、昨年の販売台数は339万274台にとどまりましたが、軽自動車は12月販売で足踏みしたものの、197万9447台と、200万台の大台にあと一歩の水準に迫りました。

2012年の新車販売は登録車・軽自動車合わせて年間で536万9721台、東日本大震災やタイの洪水の影響で新車供給がままならなかった2011年に対して27.5%増、エコカー補助金によるテコ入れもあり、110万台を超える販売増になりました。新車販売が500万台を超えたのは2008年以来4年ぶり、2007年の535万台を超える水準を達成しました。

注目は大手メーカー系列ディーラーの市場参入や競争激化による商品力アップで魅力を増した軽自動車の動向です。年間198万台の販売は、202万3500台と初めて200万台の大台を突破した2006年に次ぐ水準です。エコカー補助金が終了直後の10月販売は前年同月比0.5%増、11月は4.6%増だったものの、12月は2.5%減となり、2011年10月以来続けてきた前年同月を上回る販売は14カ月でストップしました。しかし、勢いは保てそうです。

軽自動車販売が伸びてきた背景は、消費者の節約志向の高まりというマーケット構造の変化に加えて、全メーカー系列のディーラーが軽自動車販売に進出したこと、この販



11月の発売から1カ月で2万5000台超を受注したホンダ「N-ONE」ちょっと乗ってみたいくなる魅力がある(東京・青山のホンダ本社前で)



売競争激化にともなう軽自動車そのものの商品力アップ、この3点が指摘できます。

大きな転機は2011年9月、ダイハツ工業からOEM(相手先ブランドによる生産)供給でトヨタ系ディーラーが軽自動車販売に乗り出したことです。これにより全メーカー系列のディーラーが軽自動車を取り扱うことになり、「軽自動車販売の戦国時代が到来した」とまで言われました。

トヨタ系ディーラーの軽自動車販売を迎え撃つかのようにホンダが新型軽「Nシリーズ」3車種の投入を宣言。「N BOX」「N BOX+」に続くNシリーズの第3弾として11月に発売した「N-ONE」は1カ月で2万5000台を超える受注を確保するなど、ホンダの「Nシリーズ」は好調

な出足で、国内販売の4割強を軽にするという当初目標を早々にクリアしました。この勢いで2016年度に国内販売100万台としていた中期目標は2年繰り上げ、2014年度に達成する予定です。

昨年12月にひと息ついた軽自動車販売ですが、2013年も熱を帯びることは間違いありません。年末にダイハツが「ムーヴ」を大幅に改良、これをベースとする富士重工業の新型「ステラ」も発売されました。ホンダでも軽の新モデル追加発売する予定ですし、夏には日産自動車と三菱自動車の共同出資による軽自動車事業の新会社が本格稼働、両社が軽新モデルを販売します。軽自動車の話題には事欠かない1年になりそうです。

年間の販売見通しについて全国軽自動車販売協会連合会は190万台前後と硬めの予想をしていますが、軽自動車の商品開発や宣伝に自動車メーカーは積極的に動いていることもあり、軽販売業界では「200万台超えは確実」という強気の予想が主流です。

NGP 今月のCO2削減量

リサイクル部品利用にともなう削減効果

※NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。



NGP 平成24年11月: **6,825 t**

NGP 1月からの累計: **75,054 t** (全12団体 1月からの累計 **131,831 t**)

リターナブル梱包材利用にともなう削減効果

※リターナブル梱包材の利用にともなう削減効果はNGP協同組合独自のCO2排出削減の取り組みです。ダンボールに変えて、専用梱包材を200回繰り返し使用することで削減効果を試算しました。



NGP 平成24年11月: **26.7 t**

NGP 1月からの累計: **258.4 t**

※リターナブル梱包材は、ドア・フェンダー用に加えて2011年2月よりバンパー用の運用を開始しました。

エコプロダクツ 2012 に見る自動車

環境対応車の王道は電気自動車 本格普及はどのサイズ？



ハイブリッド車を含めて電気自動車（EV）が環境対応車の王道であることは間違いないようです。

国内最大の環境展「エコプロダクツ2012」でも自動車メーカー各社がEVを展示していました。

サイズ的には小型車以下が主流になると見られるものの、EVの「1丁目1番地」はどのサイズになるのか、しばらく模索状態が続くようです。

EVは当面はセカンドカーとしての需要を狙うことになるのでしょうか。エコプロダクツの自動車メーカーのブースを見ると、下のサイズから順にトヨタ車体の「コムス」、日産自動車の「ニューモビリティコンセプト」、トヨタ自動車の「eQ」の展示がありました。昨年7月にフルモデルチェンジした「コムス」以外は今年販売が始まる予定です。それぞれ少しずつコンセプトが違います。

トヨタ車体の「コムス」は原付自転車枠のEVです。全長2395×全幅1095×全高1495mm（B・COMデリバリー）で乗車定員は1人。50ccの原付エンジンと同じということで搭載するモーターは定格出力0.95kW、最高出力5kW、最高速度は時速60kmで、1回の充電でおよそ50kmの走行が可能だそうです。

一方、今売出し中のEVが日産「ニューモビリティコンセプト」です。国土交通省が新しいジャンルの車両として位置付け、新たな交通手段として定着させようとしており、日産自動車が横浜市とタイアップして実証実験が行われました。

サイズは全長2340×全幅1230×全高1450mm、乗車定員はタンDEM2人乗り。搭載されるモーターは125ccのバイク並みを想定して、定格出力8kW、最高出力は15kW。最高速度は時速80km、1回の充電でおよそ100km走行できます。

トヨタがスモールカーの「iQ」をベースに開発し、自治体などに限定して販売をはじめたのがコンパクトEVの「eQ（イーキュー）」です。全長3111×全幅1680×全高1535mmで乗車定員は4人。搭載モーターの最高出力は47kW、最高速度は時速125

km、1回の充電で100kmの走行が可能です。

三菱自動車の軽自動車枠のEV「アイミーヴ」のボディサイズが全長3395×全幅1475×全高1610mm。これとの比較では全長がやや短く、一方で大人2人がゆったり並んで座れる空間を作るため、幅がやや広めになっています。リアに2人分の座席があるのですが、見た限りでは長時間乗っているのは窮屈なスペースでした。

通常2人で乗るのなら日産の「ニューモビリティコンセプト」で十分ですが、こちらもリアシートは大人が長時間乗るにはきつめです。1人で乗るEVだったらトヨタ車体の「コムス」で十分ということに落ち着くのかもしれません。原付バイクと同じ扱いですので、自動車重量税などはかからず車庫証明も不要です。

トヨタ車体によると、「コムス」は昨年7月のフルモデルチェンジ以降1300台ほど販売されたそうです。都市部では狭い路地に入ることができるので便利な配送車として、また郊外や地方部では屋根付き原付バイクとして日常生活の足に使われているという話でした。

ここまで小型EVの話でしたが、三菱自動車工業は「アウトランダー」をベースに開発したプラグインハイブリッド車（昨年のパリショーで初公開）を展示していました。こちらは12kWhという大容量のリチウムイオ

ンバッテリーを搭載していることがミソで、EVモードで約55kmとトヨタの「プリウスPHV」の倍近い距離の走行が可能です。

日本での日常生活で自動車を利用する場合、1回の走行距離が20～30kmという走行がほとんどです。プリウスPHVのEV走行でほとんどカバーできるのですが、「不安になるユーザーも多いので、電池を大型化し



三菱「アウトランダーPHEV」はEVとして55km走行できる

てEVでの走行距離を伸ばした」と三菱自動車は話しています。逆にエンジンを利用する機会がほとんどなくなることも考えられるので、3カ月に1回、エンジンを自動的に始動して燃料がパイプなどに詰まるのを防ぐ機構が採用されています。

こう見てくると、環境対応車として主流はEVと言えるのですが、ボディサイズ、利用法を含めてどういふEVが主力になるかについて、自動車メーカー各社は手探り状態のようにも見えます。いろいろなサイズのEVが次々に発売されると、購入する側も迷うことになりそうです。



原付枠で販売されているトヨタ車体の「コムス」



新たなジャンルの車両になる日産「ニューモビリティコンセプト」



コンパクトカー「iQ」をベースに開発したトヨタ「eQ」

「エコプロダクツ2012」に7年連続で単独出展 リサイクル部品を使った 環境に優しい自動車修理を訴える

NGP協同組合は12月13～15日の3日間、東京都江東区の東京ビッグサイトで開かれた「エコプロダクツ2012」に出展しました。エコプロダクツは日本最大の環境展示会で、今回3日間の来場者は約18万人に達しました。NGPブースではリサイクル部品の展示とともにチラシを詰め込んだエコバッグを2万セットを用意して環境委員会、総務広報委員会のメンバーが総出で配布、CO₂排出抑制につながるリサイクル部品を使った自動車修理について訴えました。

今回のブースの特徴は、10月から全国放送しているテレビCMを活用、契約しているタレントを全面的に押し出して親しみやすくしたことです。

さらにさまざまなリサイクル部品の現物展示とともにNGPが取り組んでいる研修活動なども紹介し、高品質なリサイクル部品供給のために組合員が一丸となり日々努力を続けていることをアピールしました。

エコプロダクツの開催期間に合わせてテレビCMを再開、リサイクル部品を使った自動車修理があることを積極的に宣伝し、エコプロダクツの展示と連動してユーザー各層への浸透を図りました。



リサイクル部品でCO₂が減らせることをPR



大量のエンブレムは注目の的、関心も高い



海外のお客様もNGPのリサイクル部品に注目

中国初の都市鉱山博覧会が北京で開催 NGP組合員出資の日中合併企業も出展

中国・北京市の中国国立コンベンションセンターで12月3～5日、国家再生資源回収協会が主催する中国初の「都市鉱山博覧会」が開かれました。中国は環境負荷低減と同時に都市鉱山開発による「地上資源」の再利用を積極的に進めようとしています。自動車リサイクルもこの一分野で、NGP協同組合のマルトシ青木（静岡県藤枝市）、多田自動車商会（兵庫県三木市）などが出資する日中合併会社「北京華夏車瀛汽車科技有限公司」が合併先の北京市再生資源利用開発有限責任公

司の同展ブース内にパネル出展し、効率的な自動車リサイクル技術を紹介しました。

合併会社の北京華夏は、自動車リサイクル工場のレイアウトや導入設備・機器について日本の自動車リサイクル現場で蓄積したノウハウを提供し、中国国内で効率的かつ適正な使用済自動車処理を手助けすることを目的に設立した会社です。

中国は2020年に使用済自動車のリサイクル率を95%にするとの目標が示され、さまざまなプロジェクトが立ち上がっていま



ブースを訪問したマルトシ青木の青木勝幸社長(中央)、多田自動車商会の多田幸四郎会長(左)

すが、機器などを設備できても経験が浅いために処理手順などは確立されていません。こうした中国の自動車リサイクル工場に北京華夏は技術供与を行い、自動車リサイクル分野で日中友好を深めて行くことにしています。

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
北関東	ユーパーツ前橋店	移転	〒371-0853 群馬県前橋市総社町2丁目5-12 NHビル2階 (電話・FAXの変更はありません)	24年12月14日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp